

# 声 VOICE

観光を支える方々の声を寄稿、インタビューを基にお届けします

## 「働く環境の改善」への取り組み

弊社では、社員一人一人の「ワーク・ライフ・バランス」の実現を目指し、「働く環境の改善」に注力しています。そのため、以下の四つの重点施策に取り組んでいます。

### 実現へ「四つの重点施策」

T-1 I F Eホールディングス  
総務課・人事課 課長 大原 昌人氏



1. 長時間労働の是正  
2. テレワークの推進  
3. 移動時間削減を目指す  
4. シニア層に対応した柔軟な働き方

これらを実現するためには、業務効率化が不可欠です。効率化を図るには、各種ツールやシステムの導入業務プロセスの見直し、の施策を全ての部署に一律として担当業務に必要に応じて適用することは難しいです。ウハウハスキル向上が鍵となり、適用可能な分野から順次取り組みを進めています。

また、「仕事の楽しさ」をどのように旅行業界に指す学生に伝え、興味を持ってもらうことも重要な課題です。旅行業界ならではのやりがいとして、添乗業務の楽しさや企画の面白さを挙げられます。添乗業務では、お客様と直接触れ合い、現地で特別なお客さまからいただく先のお客さまからいただく笑顔や感謝の言葉は、この取り組みに大きな励みになります。

## 観光の担い手不足に危機感

### 子供への観光体験・普及活動通じて観光人材を掘り起こせ

城西国際大学観光学部 教授  
多田 充氏



空前の人手不足を背景に、今春も観光系教育機関卒業生の就職状況は好調だ。大学としては大変ありがたい状況だが、その裏で観光系学部への進学を希望する高校生が増えていることは懸念材料である。

背景にあるのは少子化だ。18歳人口は2024年に109万人だったが、来年は1・2万人減少する。しかも今後、減少は加速していく。観光系学部の定員は減っていないが、他学部との学生争奪は激しい。学部シニアが変わらなければ、観光系学部の人材供給力は長期的に年々減少する。低年齢層への進学機会を確保し、観光系に他学部から進学する学生を増やすことが重要だ。専門をこなすことも重要だ。

子供への観光体験・普及活動を通じて観光人材を掘り起こせ。観光が日本の重要な経済成長分野であること。観光系学部に進学する学生は、他業種に比べて学費も高い。本学部では3分の1から4分の1が観光系以外に就職する。その理由は他業種の好待遇もあるが、観光系に入学したものの自分の予想とは違っていた、という声も聞かれます。この課題を解決する。

## 和歌山・日高の民泊交流の現状と将来

### 受け入れ家庭増を目指す

紀州体験交流ゆめ倶楽部  
事務局長 上山 勝士氏



私も一般社団法人紀州体験交流ゆめ倶楽部は和歌山県の日高郡に位置する日高地方(御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、みなべ町、日高川町)を拠点に、観光交流の中心に事業を展開しています。それまで日高地方の各市町村がそれぞれに教育旅行等の誘致を行っていましたが、今後大規模校の受け入れが可能とするため、各市町村が支援する形で令和3年に任意団体として紀州体験交流ゆめ倶楽部が発足し、翌令和4年に一般社団法人化、現在に至っています。

当地域は少子高齢化による人口減少が進み、有名な観光地が少ない中で、梅、備前炭などの特産物を併せて観光交流の場を創出しています。

生かした体験型観光や、合前前から一部の町の実施

## 温泉文化を守り、観光地を輝かせる

### 観光地を支える外部の力と地域の力

NPO法人わくわくプラザ  
代表理事 宮田 佳子氏



私たちNPO法人わくわくプラザは「地方創生を目的とし、温泉地や観光地が抱えている課題の解決、目標の実現をサポートしている」団体です。2007年に岐阜県の下呂温泉で地域活性化の補助事業を開始。その後NPO法人化した。現在は全国に9支部・1関連団体で展開しており、商品開発、宿泊プログラム、補助金活用提案など、各分野に強いメンバーが支援を提供しています。

温泉地や観光地には、それぞれ異なる課題が存在します。そこで私たちは、ヒアリングを通じて本質的な課題を把握し、企画を練り上げていきます。地域の方々だけでなく、私たちが

## サステナブルツーリズムと節水

### 消費者とのパートナーシップが鍵

一般社団法人 日本節水協会 理事長  
株式会社アースアンドウォーター代表取締役 山中 正美氏



節水による水資源の有効活用は、日本国内にとどまらず、世界的に求められるようになってきました。しかし、節水には業界団体が存在せず、統一基準や認証制度がなかったため、消費者が困惑しており、技術革新が進んでいないという課題がありました。

こうした状況を解決すべく、当協会は2017年5月10日に「一般社団法人日本節水協会(JAWS)」を設立し、業界さらなる発展と社会貢献を目指し、持続可能な社会の実現に向けた活動を行ってまいります。

近年、観光業の水使用量は増加傾向にあり、観光客の節水意識が鍵となります。

## 観光は地域が紡ぐ物語を届ける仕事

### 地域に寄り添い、人と地域が響き合う旅を作る

合同会社ぼたん  
共同代表  
ツアープランナー 中谷 百香理氏



長年働いた旅行会社を退職し、全国各都府県ツアーやイベントを手掛けた経験を生かして、地域活性化支援する会社を設立しました。

旅する人々には、価値を提供できるのか、観光を通じてどのような地域を作り上げたいのかを、徹底したヒアリングを行い、地域の人々の「気持ち」に合わせ、共に取り組んでいきます。

そんな中、湯島や上野不忍の池のほとり、活動を開始した「ぼたん」は、和歌山県に拠点を移し、活動の中心地になりました。

この地は、江戸時代には真承寺の門前町として繁栄し、参勤交代の御成道に面した。そんな中、湯島や上野不忍の池のほとり、活動を開始した「ぼたん」は、和歌山県に拠点を移し、活動の中心地になりました。